

第3学年3組 社会科学学習指導案

指導者 宇賀神 英

1. 日時・場所 令和8年1月21日(水) 5校時 体育館
2. 単元名 「市の移り変わり」 ～100年の歩みと未来への1歩～
3. 学校教育目標と社会科(本単元)で目指す子どもの姿

学校教育目標 「学び合い 高め合い みんなでよくなる 下平間」

学び合いとは 主体的に学び、学んだことを生かして協働的に問題解決に向かう。

高め合いとは 互いのつぶやきや考え方を認め合い、生かし合う。

みんなでよくなるとは 協働的な学びと問題解決を積み重ね、互いに高め合い成長していく。

本校では、考えや行動を互いに認め合い、ともに学ぶことのよさに気づき、「下平間でよかった」と思えるような学校生活を過ごしてほしいと上記の教育目標を掲げている。小学校での社会科の学習で、地域や我が国の国土に対する愛情、これからの将来を担う地域の一員としての自覚を養うことで、将来の担い手として多様な人々と共に生きていくことの大切さなども育まれていくものだと考える。3年生の社会科で大切にしたいことは、地域や生活を支えてくれている人たちと児童とのつながりに気付くことである。これまでの学習では働く人の工夫や努力が生活を支えてくれていることに気付いた。本単元では第1単元で学んだ今の川崎市までの100年間の移り変わりを知り、これからの市の発展を考えることで、自分たちがこれからの地域の一員として、何かできることがあるのではないかと、考え続けていく子どもを育てていきたい。

4. 単元目標

川崎市や人々の生活の様子について、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、地図などの資料で調べてまとめ、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し解決しようとしたり、学習したことを基に、市の発展のために、市が将来どのようなようになってほしいかや、自分たちが市民としてどのように行動していけばよいか考えようとしたりする態度を養う。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いについて、地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市や人々の生活の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解している。	①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見出し、市の人々の生活の様子について考え表現している。 ②川崎市や人々の生活の時間の経過に伴う移り変わりと、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いを関連付けて、川崎市や人々の生活の様子の変化を考えたり、学習したことを基に、川崎市の発展を考えたりして、表現している。	①川崎市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、これからの市の発展について、市が将来どのようなようになってほしいか、そのためには市民としてどのように行動していけばよいかなどを考えようとしている。

6. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

(1) 教材化 ～川崎市のエポックメイキングな変化を実感できる教材化～

川崎市にとってエポックメイキングといえる出来事のあった時期を取り上げる。具体的には川崎市歌の歌詞は市の移り変わりに伴って変わったこと。学校近くには新鶴見操車場（現在の新川崎駅）が開かれ、1日5000両の貨物列車が行き来していたこと。学区内の集合住宅は工場跡地に建てられたことなどを扱う。これらに関連付け、土地利用の変化は人口の増減や交通の発達と関連しているということを理解できるようにする。また、全国初の外国人代表者会議を開き、市が多様性を大切にしているという目に見えにくい移り変わりにも着目できるようにしたい。そして、市の発展を考えるきっかけとして、工場跡地の再開発がまちづくりに活用されていく事例を考えることによって、市の移り変わりが今も続いていることに気づき、人々のためのよりよい川崎市の発展を願う姿につなげたい。

(2) 学習過程 ～過去⇄現在⇄未来、概念的知識を獲得・活用して、深い学びの実現を目指す学習過程～

問いの解決に向けて、社会的事象の見方・考え方を働かせて、市の移り変わりを追究し続け、「これまで」の確かな理解をもとに、「これから」を考えていくことで、概念的知識を獲得・活用して深い学びの実現を目指す。川崎市にとってエポックメイキングといえる出来事のあった時期の市の様子に着目し、その傾向を捉え、これからの市の発展を考える単元構想を設計した。導入では、現在と誕生したころの川崎市の形と土地利用の違いから、今の川崎市とのズレに気づき、100年の間、どのような変化を経て、今のような市の姿になったのか、疑問をもてるようにする。そして、エポックメイキングな出来事があった時期の市の変化を調べ、年表にまとめ、その傾向を捉え、理解したことが現在の変化にも当てはまるかを考える。獲得した知識を活用してこれからの川崎市の発展や市民として何を大切にして、どんなことができるかを考えようとする姿を目指す。

(3) 学習活動 ～川崎市の100年の歴史を年表にまとめ、変化の傾向を捉える～

各時期の交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などを調べ、年表にまとめていくことで、一人一人が市の移り変わりの傾向を捉えることができるようにする。単元後半には、作成してきた年表を用いて、傾向について気付いたことを矢印を用いて書き込み、その意味を説明する活動を設定する。調べてわかったことを関連付けて捉え直し、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解できるようにする。個々の学びを全体に向けて可視化したり、個人間でアクセスしやすい環境を整えたりすることで、わかったことや考えたことの重なりやズレに子どもたちが気付くようにする。そして共有を通して、次時以降の学びを調整するきっかけにしていく。

(4) 指導と評価 ～問いの解決に向け、学習を調整するきっかけを生む見取りに基づく指導と評価～

児童が自らの学習を調整し、主体的に学びを深めていけるようにする。そのために、市の移り変わりを調べ、「なぜそうなったと思う？」「それによって人々の生活はどうなったと思う？」などの問い返しや、資料提示を繰り返していく。また本時では、前時に考えた川崎市に区ができた時期の様子から現在の市の様子に至るまでの移り変わりの傾向についての考えを見取り、個々のズレによって学びが深まったり、広がったりするような対話や協働を促す指導をする。児童が自分の学びの質を自己評価しながら、学習を進めていくなかで、学習の調整や他者との対話や協働を通して、解決を目指すことの良さを実感できるようにしていく。

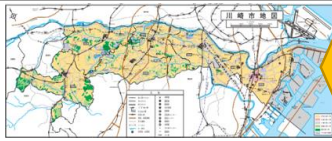
(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～思いが享受され、ともに生かし合う社会科学習～

本単元では、社会科の学習を通じて、多様な他者とともに未来を考える。児童は川崎市の移り変わりを各種資料で調べ、その事実に基づいた100年間の市の変容に対する自分なりの意味や価値を表現する。そうして表現された個々の考えを持ち寄り、「便利さの向上」や「多文化共生」など、教室内で異なる価値観をもつ友達や社会で暮らす人々の様々な考え方に出会い、互いに尊重され、享受されることで、一人一人の市の移り変わりに対する認識が深まっていくと考える。事実に基づく自己の解釈と、他者との協働的な対話を往還することで、これまでの川崎市の発展を単なる時間の経過に伴うものではなく、人々の営みや願いの積み重ねとして実感できるようにしたい。そして、これからの川崎市の未来を創る一員として、他者とともに何を大切にして、どんなことができるかを考えようとする社会科学習を目指す。

7. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想図

① 今と102年前の川崎市を比べてみよう

現在の川崎市 人口：155万3920人



- ・川崎市が広がった。交通が便利でお店も多い、暮らしやすいまちになったと学習したよね。
- ・電車や道路はいつからこんなに増えたんだろう。
- ・埋立地の工場が広がった？
- ・学校や公共施設もこんなになかったんじゃないかな。

川崎市誕生（1924年 大正13年）人口：5万188人



時間の経過に伴う
変化に着目

- ・震災を協力して乗り越えようとして、市になったんだ。
- ・今の川崎市の形と違うし、小さいまちだね。埋立地は少しだけある。
- ・下平間は最初から川崎市に入っていたけど、区がないぞ。小学生の服装も自分たちが着ているものとは違うね。御幸小に通っていたんだ。まちに人口が増えたから下平間小ができたのかな？

① ② 【単元の問い】

誕生から100年で、どのようにして今のような川崎市になったのだろう（思①態①）

② 解決の見通し

学習した今の川崎市の土地利用や交通網のようになるまでに、何があったんだろう。

土地利用や交通網には関係があったから、変化にも何かつながりがありそう。川崎市の100年の歴史を調べよう！

③④ 【昭和の初め】 川崎市が今の形になったころ、川崎市はどのようなまちだったのだろう 知①

初期川崎市歌 新鶴見操車場完成

①大正～昭和の初めごろ



②昭和の初めごろ



岡上、柿生が川崎市に入って、今の川崎市の形になった。埋立地や私たちの学校の周りにも工場がたくさんできて、鉄道や道路が増え、市歌にもあるように「工業のまち川崎」になった。

⑤⑥ 【昭和】 区ができたころの川崎市はどのようなまちだったのだろう 知①

川崎市歌 5区制→7区制 川崎市に住む外国人の人数の推移 全国初の外国人市民代表者会議開始



川崎市に住む外国人の人数

年	人数
1980年	10054人
1995年	19490人

最初は5区から始まって、宮前区と麻生区が新たに誕生した。まちの工場が減って、住宅地が増えた。家で使う道具は自動のものが増えて便利になったね。人口が増えて公共施設が増えたとし、川崎市で暮らす外国人も増えて、「みんなが暮らしやすいまち川崎」になってきた。

⑦⑧ ⑦：年表を整理して移り変わりの傾向を捉える（思②） ⑧単元の問いに対する自分の考えをまとめる（知②）

誕生から100年で、どのようにして今のような川崎市になったのだろう（知②思②）

【単元の問いについてのまとめ】

川崎市は交通の発達に合わせて、「工場のまち」から「みんなが暮らしやすいまち」に変わり、人口が増えてきた。みんなのために必要な公共施設も増えて、工場跡地をみんなのための広場にするなど、市民の願いに合わせて、さらに暮らしやすいまちへと姿を変え続けています。

2025年の川崎市ブランドメッセージ

シティプロモーション課の人の話「一緒に、川崎市の未来を考えましょう。」

⑨⑩ 「新しいはじまりを、さあ、いっしょに。」

これからはどのような川崎市になったらよいだろう（思②態②）

シティプロモーションポスター 100周年記念誌 記念動画

【これからの川崎市の発展についての考えの例】

川崎市はこれまでいろいろな変化をしてきた。これからは私たちも川崎市を盛り上げていきたい。いろんな人がいるから、いろんなことがよくなって、みんなが幸せな川崎市になるように、自分にできること、みんなのできることにチャレンジしてみたいと思います。

8. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（10時間） ※☐は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
① 現在の川崎市の様子と市が誕生した時の市の様子を比較して話し合うことを通して、単元の問いをつくり、市や人々の生活の様子について予想することができる。	○現在の川崎市と市が誕生した時の市の様子の違いに着目して、話し合い、単元の問いをつくる。 ○単元の問いについて予想をする。	◇現在の川崎市の土地利用図と人口 ◇1924年の川崎市形の図と人口 ◇1924年に市役所前で撮影された市制記念の写真 ◇市が誕生した頃の学校周辺の地域で暮らす人の様子	発言内容やノートの記述から、「市の様子の移り変わりについて、問いを見出し、変化の理由や経過を予想することができているか」を評価する。 【思一①】
② 単元の問いの解決に向けて学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつことができるようにする。	○予想を出し合い、学習計画を立てる。	◇前時の資料	発言内容やノートの記述から、「単元の問いの解決に向けた見通しを持つことができているか」を評価する。 【態一①】
③④川崎市が今と同じ形になった時期の様子を調べることを通して、当時の市や人々の生活の様子について理解できるようにする。	○川崎市が今の形になった時期の交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などを調べ、年表に整理する。 ○当時の市や人々の暮らしの様子を文章でまとめる。	◇副読本かわさき ◇まちは友だち ◇初期川崎市歌 ◇新鶴見操車場の当時の様子	年表やまとめの記述から、「川崎市が今の形になった時期の市や人々の生活の様子について調べ、当時の市や人々の生活の様子を理解できているか」を評価する。 【知一①】
⑤⑥川崎市が政令指定都市となり、市内に区ができた時期の様子を調べることを通して、当時の市の様子や人々の生活の様子について理解できるようにする。	○川崎市に区ができた時期の交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などを調べ、年表に整理する。 ○当時の市や人々の暮らしの様子を文章でまとめる。	◇副読本かわさき ◇まちは友だち ◇川崎市歌 ◇川崎市に住む外国人の人数の推移 ◇外国人市民代表者会議の様子	年表やまとめの記述から、「川崎市に区ができた時期の交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などを調べ、当時の市や人々の生活の様子を理解できているか」を評価する。 【知一①】
⑦学習してきた交通や公共施設、土地利用、人口などの時期による変	○既習をもとに、時期による市の様子の変化と傾向について考える。	◇児童作成の年表 ◇学級全体で整理してきた年表	年表に書き込んだ矢印とその意味の説明の記述から、「学習してきた

<p>化を、年表をもとに整理し、それらが川崎市や人々の暮らしの移り変わりにどのように関連し合っているかを捉えることができるようにする。</p>	<p>○川崎市の移り変わりを考え、矢印を用いて気付いたことを表現する。</p>		<p>交通や公共施設、土地利用、人口などの時期による変化を、年表をもとに整理し、それらが川崎市や人々の暮らしの移り変わりにどのように関連し合っているかを捉えることができるか」を評価する。</p> <p>【思一②】</p>
<p>⑧学習してきたことをもとに、市の移り変わりを捉えた互いの考えを伝え合うことを通して、現在の市の移り変わりの様子も含めた、単元の問いに対する自分の考えを文章にまとめることができるようにする。</p>	<p>○区ができた時期から現在に至るまでの傾向について気付いたことを、矢印を用いて書き込み、その意味を伝え合う。</p> <p>○単元の問いに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>◇これまでに作成した年表</p> <p>◇市と企業が連携して取り組んでいる再開発計画</p>	<p>単元の問いに対するまとめの記述から「市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解しているか。」評価する。</p> <p>【知一②】</p>
<p>⑨⑩これからの川崎市の発展に関心をもち、既習をもとに自分なりに考えることができるようにする。</p>	<p>○これからの川崎市がどんな川崎市になってほしいかを、過去のシティプロモーションポスターを参考にして、自分の視点を決めて考える。</p> <p>○自分なりに考えたことを伝え合い、市民としてどのようなことをしていけばよいかを考える。</p>	<p>◇川崎市ブランドメッセージ</p> <p>◇シティプロモーション課の人の話</p> <p>◇これまでのシティプロモーションポスター</p>	<p>ノートの記述から「既習をもとに、川崎市の発展を考え、表現しているか」を評価する。</p> <p>【思一②】</p> <p>振り返りの記述から、「学習したことを基に、これからの市の発展のために市民としてどのようにことをしていけばよいかなどを考えようとしているか」を評価する。</p> <p>【態②】</p>

本時の展開（８／１０）

（１）ねらい

学習してきたことをもとに、市の移り変わりを捉えた互いの考えを伝え合うことを通して、現在の市の移り変わりの様子も含めた、学習問題に対する自分の考えを文章にまとめることができるようにする。

（２）展開

学習活動	・予想される児童の反応（☆教師の発問）	支援（○）と評価規準
<p>前時までの児童の意識</p> <p>現在の川崎市になるまでのエポックメイキングな出来事のあった時期の市や人々の暮らしの様子を調べ、年表にまとめてきた。前時には、今と同じ市の形になった時期から区ができた時期の間に見られる市や人々の生活の様子の変化の傾向を考え、「交通の発展による土地利用の変化によって、人口が増えた。」と捉えている。近年の変化の傾向については、「工場が減り、住宅地が増え、多くの人が住む便利なまちになった」と捉えている。しかし、現在の再開発に見られるような新しい変化の兆しについては、意識をもてていない。</p>		
<p>１．単元の問いと前時とのつながりを確認する。</p> <p>２．区ができた時期から現在までの変化を表した矢印の意味を伝え合い、川崎市の変化の傾向を捉える。</p> <p>３．市内の再開発の様子から、今までとは違った土地利用の変化が始まり、川崎市の移り変わりは現在でも人々の生活に関連していることに気付く。</p> <p>４．単元の問いに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>誕生から１００年で、どのようにして今のような川崎市になったのだろう</p> <p>・交通はさらに便利になったと思う。はるひ野駅が新しくできたり、市内に乗り入れる路線が増えたりしたし、アクアラインや多摩川スカイブリッジができて、千葉県や羽田空港にも行きやすくなって、人も物もたくさん行き来するようになったと思う。</p> <p>・公共施設はいろいろな施設ができたよ。どの区にも図書館ができたし、夢パークや科学館や音楽施設、博物館、美術館ができたことで楽しめる場所が増えた。それに国際交流センターができたことで川崎に暮らす外国人と市民の交流がしやすくなって、人口が増えたことともつながっているといえそう。</p> <p>・土地利用と人口はこの間にも変わったよ。昭和には緑の多かった北部に住宅が増えた。下平間のまちのように、大きな工場があったところはマンションに変わって、１５０万人が暮らすだけの家の数が増えたことにつながる。南武線沿いにあった工場が減って、マンションが建ち、駅の周りの土地利用も変わった。</p> <p>・暮らしの道具は、私たちが知っている道具になってきたよ。機械が自動でやってくれることが多くなって、便利なことが増えてきたよ。</p> <p>・今の市の形ができた時期から区ができた時期の間の変化とは少し違って、さらに便利なまちになった印象があるな。</p> <p>・川崎市って、１００年間ずっと変わり続けているんだね。</p> <p>富士通跡地の再開発（市と企業の連携） 「ウォーカブルなまちづくり」</p> <p>・駅近くの工場はマンションになることが多かったけど、令和になったら、もうマンションはいらないってことかな。</p> <p>★川崎市はこれで完成ってことかな？</p> <p>・これまでとは違った変化をし始めたんだ。</p> <p>・これからどんな川崎市を目指しているのか気になるな。</p> <p>〈まとめ〉 川崎市は交通の発達に合わせて、「工場のまち」から「みんなが暮らしやすいまち」に変わり、人口が増えてきた。市民の生活に必要な公共施設の数も種類も増えた。工場跡地をみんなのための広場にするなど、川崎市は今も変わり続けています。</p>	<p>○前時に児童が年表に書き込んだ変化の矢印とその意味についての考えが深まったり、広がったりすることができるような相手との交流を設定してから、全体共有をする。</p> <p>○友達の発表を聞いて参考になったことを自分の年表に書き込んでいくことで、</p> <p>○着目して調べてきた事象ごとに発表していくことで、市の移り変わりの傾向を関連付けて考えることができるようにし、変化のつながりを近くの児童同士で話し合う活動と時間を設定する。</p> <p>○工場跡地の新たな再開発に着目し、市の土地利用の変化に新たな兆しがあることに気付くことで、これからの川崎市の変化に意識をもたせることができるようにする。</p> <p>まとめの記述から「市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解しているか。」を評価する。知②</p>

